

内部障害リハビリテーション学演習

《担当者名》○澤田篤史 (as-51@hoku-iryu-u.ac.jp)

【概要】

呼吸器障害、循環器障害および代謝性疾患との症候学的かつ障害学的連関を確認しながら、この分野でのリハビリテーションに関する先行研究を、受講者が抱えている内部障害に関連する臨床的課題と視点から俯瞰し、内部機能に関する科学的根拠に基づいた評価法および治療法とその検証法に関するレビューを行い、報告する。

【学修目標】

内部障害を有する対象者に対するリハビリテーションに関する科学的根拠に基づいた評価法の選択および治療法の選択について検証することができる。

1. 内部障害の症候学的かつ障害学的解釈のEBMについて探索できる。
2. 内部障害合併例の臨床的課題に基づいてレビューを行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	本演習科目における概要および学習目標と、この科目に対する受講者の要望との整合性をはかる。 2回目以降のテーマの進めかたについて、臨床的課題の提出などの取り決めを行う。	澤田篤史
2~5	内部障害に関連する臨床的課題についてディスカッション	受講者の内部障害に関連する臨床的課題について、症候学的かつ障害学的解釈を通して解決の方向を探る。 種々の臨床データの解釈を通してリハビリテーションの視点からのアプローチを探る。	澤田篤史
6~10	文献調査と臨床的課題との関連についてディスカッション	受講者の内部障害に関連する臨床的課題に基づいて、関係する国内外の文献をまとめ、臨床的課題との関連あるいはそのアプローチの展望についてディスカッションを行う。	澤田篤史
11~13	文献調査とシステムティックレビューの作成	受講者の内部障害に関連する臨床的課題に基づく国内外の文献をまとめ、臨床的課題ごとの文献調査およびそれらをまとめたシステムティックレビューの作成に取り掛かる。	澤田篤史
14	システムティックレビューの報告	内部障害に関連する臨床的課題へのエビデンスに基づくアプローチについて、受講者は文献調査によるシステムティックレビューの報告を行う。	澤田篤史
15	内部障害リハビリテーションの実践報告 (シングルケーススタディ)	1回から14回までの学習に基づいて、受講者はシングルケーススタディ形式での実践報告を行う。	澤田篤史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席を前提として、ディスカッションおよびプレゼンテーション(40%)、システムティックレビュー(40%)、シングルケーススタディ(20%)として総合評価

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

- 1) Wasserman, K. 著(谷口興一監訳); 運動負荷テストの原理とその評価法 南江堂
- 2) Scot Irwin; Cardiopulmonary Physical Therapy Mosby
- 3) ACRPR(日本呼吸管理学会監訳); 呼吸リハビリテーション・プログラムのガイドライン LIFE SCIENCE PUBLISHING

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習する(予習・復習の合計で160分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士としての病院や研究施設における実務経験をもとに講義・演習を行う。